

2019年3月19日

中野区消防団運営委員会（第1回）次第

1 委員の委嘱

2 議事

- (1) 前回の答申概要の報告及び今回の諮問に対する検討事項について
- (2) 委員会日程について
- (3) その他

《配布資料》

- 中野区消防団運営委員会委員名簿
- 資料1 前回の答申概要の報告及び今回の諮問に対する検討事項について
- 資料2 委員会日程（案）

中野区消防団運営委員会委員名簿

	氏 名	備 考
委員長	酒井 直人	中野区長
委 員	荒木 ちはる	学識経験者 (都議会議員)
委 員	高倉 良生	
委 員	西沢 けいた	
委 員	河原井 守	学識経験者 (中野防火防災協会会長)
委 員	大野 道高	学識経験者 (野方防火防災協会会長)
委 員	大内 しんご	区議会議員
委 員	若林 しげお	
委 員	小林 ぜんいち	
委 員	日野 たかし	
委 員	広川 まさのり	
委 員	山本 たかし	
委 員	岡里 勉	中野消防署長
委 員	菅井 学	野方消防署長
委 員	本多 正	中野消防団長
委 員	鈴木 正明	野方消防団長

資料 1

平成31年3月19日

第1回中野区消防団運営委員会資料

前回の答申概要の報告及び今回の諮問に対する検討事項について

資料作成
中野消防署警防課防災安全係

特別区消防団運営委員会の答申を踏まえた対応方針について

1 諮問事項

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、消防団の活動能力を強化するための方策はいかにあるべきか（審議期間：2016年11月から2018年3月まで）

2 諮問の趣旨

近年、各地で地震・水災等の大規模な自然災害が発生しており、東京においても直下地震等による大きな被害の発生が予測される中、「地域密着力」「要員動員力」「即時対応力」を兼ね備えている消防団には大きな期待が寄せられている。

また、特別区消防団は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）の開催都市の消防団として大会の成功に向け、大会開催期間中の災害の未然防止と災害発生時における人的・物的被害を最小限にとどめるため、消防署隊と連携した警戒を実施する必要がある。

このことから、東京2020大会に向けて、消防団の活動能力を強化するための方策について諮問するものである。

3 答申及び対応方針

	主な答申内容	対応方針	対応年度
活動体制の整備	応援による警戒に伴い、消防団員の所属や身分の識別が必要	・消防団員証の更新等	31年度以降更新予定
	消防団の応援による警戒を実施するため、関係規程に消防団の管轄区域外の警戒の規定が必要	・特別区消防団の災害活動等に関する規程の改正	30年度以降改正予定
活動環境の充実	夏の暑い時季の警戒となるため、警戒員に対する熱中症予防対策が必要	・酷暑対策用被服の整備（活動用帽子、ポロシャツ、Tシャツ）	31年度整備予定
	警戒中に発生した火災に対する消火活動時の負担の軽減が必要	・50mmホース・ガンタイプノズルの試行	30～31年度試行実施
	夏の暑い時季に発生する、ゲリラ豪雨等による水災への対応が必要	・水害対策用資機材の整備（フローティングストレーナー・強カライト・フロートロープ）	31年度整備予定
	発生した傷病者に対応するため応急救護能力の向上が必要	・AEDの整備	30年度整備実施
	広範な警戒範囲に対応するため迅速で確実な消防団相互の情報共有が必要	・アプリケーションを活用した情報共有の検証	31年度検証予定

主な答申内容		対応方針	対応年度
活動能力の向上	多数の来場が予想される外国人への対応能力の向上が必要	・コミュニケーションボードの整備	31年度以降整備予定
		・英会話講習の実施	30年度講習実施 31年度講習予定
	多数の来場が予想される聴覚障害者への対応能力の向上が必要	・手話講習の実施	30年度講習実施 31年度講習予定
	警戒等に必要教育を効果的に行うため、教育環境の向上が必要	・e-ラーニングシステムの活用による教育訓練の推進	30年度から試行実施
消防団活性化策	警戒に必要な体力の維持向上が必要	・消防団応援の店ヘスポーツクラブの加入促進	31年度加入促進予定
	来場者等に対する消防団の広報のため消防団のアピールが必要	・酷暑対策用被服に対する消防団マーク等の表示	31年度整備予定
その他	東京2020大会の警戒により消防団の負担が増加することから、消防団の行事の整理が必要	・機能別消防団員の導入促進	30年度から導入促進実施
		・団点検・操法大会の実施方法の検討	30年度から検討実施

4 参考

資機材	諸元等
活動用帽子・Tシャツ・ポロシャツ 	<ul style="list-style-type: none"> ・通気性や速乾性のある素材を採用し、着心地を向上 ・消防団マークやバックプリント等の表示による消防団の広報効果を期待
フロートストレーナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・吸水量：最大1,500ℓ/m ・水深2cmまで吸水可能 ・水面で浮かんだ状態で吸水し、水底に堆積物が多くても対応可能
強カライト 	<ul style="list-style-type: none"> ・出力(明るさ)：15W(900ルーメン) ・電源：充電式リチウムイオンバッテリー ・連続使用時間：2時間15分 ・防水性能：IP56
フロートロープ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロープサイズ：直径9mm×22m ・材質：ポリプロピレン製 ・水面に浮く機能を備え、足元が冠水した状態でも住民の避難誘導時に誘導ロープを見失うことがない。

特別区消防団運営委員会への諮問事項について

1 諮問事項

特別区消防団の組織力を強化するための方策はいかにあるべきか

(審議期間：諮問日から2020年3月まで)

2 諮問の趣旨

近年、日本国内において地震や台風等様々な災害が起き、各地で甚大な被害が発生している。ここ東京においても首都直下地震の発生が危惧されているところであり、消防団は消火活動や救出救助等において正に地域防災力の要としての活躍が期待されている。

そのような中、特別区においては基本団員を中心とした消防団員の確保のため様々な募集広報活動を行っているものの、現在、消防団員は減少を続け地域防災力の低下が懸念されているところである。

また、消防団員の全国的な減少から、総務省消防庁は特定の活動、役割のみに参加する消防団員である「機能別団員」の制度導入を各自治体に要請してきたところであり、さらに2018年1月には「消防団員の確保方策等に関する検討会」の報告書により、大規模災害時に消防団活動を行う機能別団員の導入についても提案がなされたところである。

このことから、機能別団員の更なる拡充等、特別区消防団の組織力を強化するための方策について諮問を行うものである。

3 現状



基本団員

任務・役割

- ・消火活動
- ・警戒
- ・防火防災訓練指導
- ・応急救護訓練指導
- ・募集広報活動
- ・大規模災害（震災・水災）活動 など

位置づけ

- ・団本部
- ・分団

階級

- ・団長
- ・副団長
- ・分団長
- ・副分団長
- ・部長
- ・班長
- ・団員

処遇

- ・報酬 42,500円/年（団員の場合）
- ・費用弁償 4,000円/回
- ・退職報償金 200,000円（勤務年数5年以上10年未満で団員の場合）

給貸与品

○給与品

- ・冬帽 1
- ・冬服 1
- ・夏帽 1
- ・夏服 1
- ・活動服 2
- ・活動服（薄型） 2
- ・兼用外とう 1
- ・ネクタイ 1
- ・ワイシャツ 1
- ・バンド 1
- ・短靴 1
- ・編上げ活動靴 1
- ・ゴム長靴 1
- ・アポロキャップ 1
- ・手袋 1

○貸与品

- ・階級章 2
- ・襟章 2
- ・活動用雨外とう 1
- ・防火帽 1
- ・防火帽しころ 1
- ・防火服 1
- ・保安帽 1

4 方向性

① 機能別団員の更なる拡充

☞ 一昨年から消防団員確保のため、機能別団員の受入れをお願いしているところですが、進んでいない状況です。このことから、各消防団において機能別団員を受入れるために必要なことについて審議してください。

※ 機能別団員

全ての消防団活動を行う基本団員に対し、特定の任務や役割を行う消防団員

② 大規模災害団員のあり方

☞ 震災等大規模災害発生時の消防団の活動力の確保のため、消防団員を確保することが重要です。このことから、各消防団において大規模災害団員を受入れるために必要なことについて審議してください。

※ 大規模災害団員

震災等大規模災害時に消防団活動を行う消防団員

③ その他、組織力強化方策

☞ 現在の消防団の組織力を強化するため、消防団の魅力向上・活性化策、効果的な入団促進・退団抑制策、装備資機材の整備等について審議してください。

5 検討事項①②

任務・役割

☞ どのような任務・役割の機能別団員が受入れられるか？
 (例) ・ 応急救護訓練指導を行う機能別団員
 ・ 大規模災害時に活動する大規模災害団員 など

位置づけ

☞ どこに配置するのか？
 (例) ・ 団本部
 ・ 分団 など



機能別団員

大規模災害団員

処遇

☞ 報酬、費用弁償、退職報償金は基本団員と同じでよいのか？
 (例) ・ 基本団員と同じ ・ 増額 ・ 減額 ・ なし など

階級

☞ 階級は基本団員と同じでよいのか？
 (例) ・ 基本団員と同じ ・ 団員に固定 など

給貸与品

☞ 給貸与品は基本団員と同じでよいのか？
 (例) ・ 基本団員と同じ ・ 任務や役割に必要な給貸与品に限定など

対象

☞ どのような人に担ってもらいたいのか？
 (例) ・ 消防団のOB ・ 東京消防庁のOBや非常勤職員
 ・ 区役所職員 ・ 女性 ・ 学生 など

その他

☞ 必要な資機材や訓練など

6 例（機能別団員）

任務・役割

応急手当訓練指導は年間約30回実施しており、現行の基本団員の活動負担を軽減するため、応急救護訓練指導を行う機能別団員の導入を図る。

位置づけ

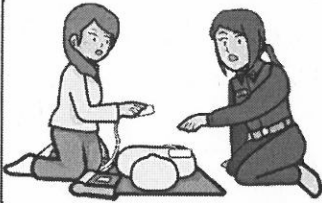
団本部に配置する。

処遇

年を通して応急手当訓練指導の機会が多く、1回の指導時間も数時間を要することから報酬、費用弁償は基本団員と同じとする。

階級

災害活動を行わないことから階級は班長又は団員に固定とする。



給貸与品

応急手当訓練指導に必要なものに限定し配布するため、給与品は、活動服、アポロキャップ、兼用外とう、バンド、短靴、編上げ活動靴とし、貸与品は、階級章、襟章、活動用雨外とうとする。

機能別団員

対象

女性や学生などを対象とする。

その他

レサシアン、訓練用AEDなど応急救護訓練指導に必要な資機材を整備する。

7 例（大規模災害団員）

任務・役割

大規模災害発生時の消防団の活動力の確保のため、大規模災害時に消防団活動を行う大規模災害団員の導入を図る。

位置づけ

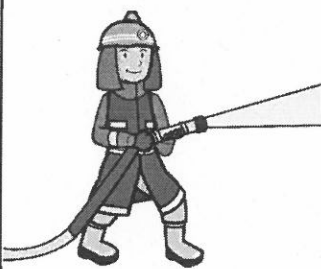
団本部に配置する。

処遇

大規模災害発生時の活動を想定していることから、報酬は支給しないものとする。また、大規模災害時に消防団活動や訓練等に対しては基本団員と同じ費用弁償を支給する。

階級

大規模災害発生時のみの活動となることから階級は班長又は団員に固定とする。



給貸与品

大規模災害時の活動に必要なものに限定し配布するため、給与品は、活動服、アポロキャップ、兼用外とう、バンド、編上げ活動靴、ゴム長靴とし、貸与品は、階級章、襟章、活動用雨外とう、保安帽、防火服、防火帽、防火帽しころとする。

大規模災害団員

対象

消防団のOBや東京消防庁のOBなどを対象とする。

その他

年1回以上、震災訓練等の機会に教育訓練を実施する。

8 検討事項③

魅力向上・活性化策

- ☞ 処遇改善など消防団の魅力向上に必要なことは何か？
- ☞ 消防団の組織を活性化させるために必要なことは何か？

入団促進・退団抑制策

- ☞ 効果的な募集広報はどのような広報か？
- ☞ 消防団活動を続けやすくするためにはどのような活動環境が必要か？

装備資機材の整備

- ☞ 安全な消防団活動のため必要な装備資機材はどのような装備資機材か？
- ☞ 軽量化など消防団活動の負担を軽減するための装備資機材はどのような装備資機材か？

その他の組織力強化方策

- ☞ 上記以外で、それぞれの消防団にとって組織力を強化するための方策は何か？

9 注意点

- ① 消防団の定数の議論や機能別団員及び大規模災害団員の定数の議論となると、審議運営に支障を来す恐れがありますので、消防団の現在の定数を前提とした審議としてください。
- ② 定員が充足している消防団についても方向性で示す内容の審議をお願いします。

委員会日程（案）

開催回	審議内容
第1回 2019年3月19日 13時30分	(1) 前回の答申概要の報告及び今回の 諮問に対する検討事項について (2) 委員会日程について (3) 次回の審議予定
第2回 2019年8月下旬	(1) 骨子に沿った審議 (2) 答申案の作成 (3) 次回の審議予定
第3回 2020年2月上旬	(1) 答申案の審議 (2) 答申の決定